

らぶれた

2023年
7月号
vol.91

発行：株式会社ラプロス
発行人：代表取締役 樋口 繁樹
〒810-0001
福岡市中央区天神1丁目12番1号
日之出福岡ビル5階
TEL 092-737-2211
FAX 092-737-2212
弊社のHPは下記URLより
ご覧いただけます。
<http://www.lapros.co.jp/>
編集担当：渡辺、藤吉



体感できる ありがたさかな

前号の締めで春の風物詩でうちのマンションのタケノコのことを書きましたが、ゴールデンウィークのどんたく港まつりも盛大に行われ、いよいよ夏。夏と言えば博多祇園山笠。前にも一度この欄で書きましたが、僕は土居流G町からもう30年以上ヤマに出ているのぼせもんです。しかしこのお祭り、今でこそ晴れやかな顔で若手として中高大学生に社会人若手など多く参加していますが、町内の大先輩に伺いますと昭和の後半ごろは、とにかく昇き手が少なく（つまり元気な若者の参加が少なく）、今は30分で昇き終わる夕方の流昇きや朝山に1時間～1時間半かかることも普通にあったようです。とくに朝山は、中高生が山を昇っている途中で「行ってきま〜す！」

とって一人抜け二人抜けて学校に行くに残るはロートルな昇き手ばかり（失礼！）、そりゃ山足もつきませんよね。途中で山を止めて右肩と左肩で入れ替わるなどやりながら、皆いわゆるコッパゲたフラフラ状態で山小屋に戻るなんて、今では想像



2022年土居流れ 集団山見せ

春夏と 四季折々の風物詩

5月8日、広島サミット準備に合わせて？新型コロナウイルス分類が2類から5類へと緩和され、待ちに待った（ほぼ、ですが）コロナ前の風景が戻って参りました。街を歩き交う人たち、ビジネス人、買物客、観光客…皆の笑顔や笑い声が増えたように感じ、こちらも嬉しくなってきましたね。別にウィルスが撲滅されたわけでも何でもないわけですが、気分が違います。専門家の皆さんはもちろんお立場上油断してはなりません！というわけですが、そもそも病は気からで病気というくらいですから、皆の笑顔が増えると免疫力も付くってことで高齢者の方や持病のある方含めて、外出して活動できることそのものが身体に良い事だと実感する今日この頃です。

しづらい情景です。

もちろん地元の若者の皆さんがどんどん増えたわけではありませぬ。この博多商人文化のありように興味を持っていて祭りとなると血が騒ぐ（自分もその一人）、勤めたり住んだりしているのは博多部以外だけこの街の店や会社や家に縁がある人たち、そうした人たちを受け入れて、今や8割は域外の者が参加しているという話もあります。昨今は外国人の福岡居住者も結構参加しています。統率がとれないと怪我人も出ますので様々なルールがあるわけですが、外国人も含め域外参加の人たちも皆先輩から教えられたルールを守っていますよ。

4年前の令和元年、三番山笠土居流はわがG町が7年ぶりの当番町で町域に山小屋が立ち、町内皆でフル稼働しました。少々時間と手間がかかり疲れるけどやり甲斐があるし、やっぱり楽しい～それが山笠当番町です。その後コロナコロナで2年が過ぎ、昨年二番山笠土居流が奉納されましたが、僕は実父の逝去で喪がかかり全行事参加できませんでした。というわけで喪が明けた今年は4年ぶりのヤマなのです。もう昇き手としては戦力外（というか昇きたい若手がいっぱいいるから入れない・・・）ですが、いつの間にか仕事柄役割を仰せつかり、G町の不動産担当として詰所の場所確保の打合せやら寄付のお願いやらで、ヤマが動き出す前の準備が当番町以外の平番の年でもけっこうあるわけです。今年のヤマはどんたく同様ほぼコロナ前に戻るとのお達しもあり、血が騒いでおります。

余談ですがこのヤマの昭和以降の流れを見ると、人口減の日本の働き手を確保するには、ルール作りをして海外からの移住も含めて門戸を開き、国内市場を若手で活性化させる～その見本のような気がしますね。



2022年 土居流れ 昇き山
「雷電天下無双誉」
(らいでんてんかむそうのほまれ)



代表取締役 樋口 繁樹

熱中症を 予防しよう

エアコンを上手に活用

夜間や就寝中も 温度・湿度管理を

涼やし中華 盆栽 はじめました

文：山森

新卒社会人になりたてで東京で働いていた頃の職場の先輩が昨年末に遊びに来てくれました。転職をして今の仕事に就いた僕とは職種が違いますが、新人の頃から社会人として仕事に取り組む姿勢のいろはを教わった尊敬している先輩です。3～4年に一度、年末に先輩の地元佐賀県へ里帰りの際に福岡で遊ぶのが恒例です。東京時代には公私混同も甚だしく、仕事も遊びも大変お世話になっていたのが僕の趣味・思考を熟知していただいております。いつもうれしいお土産（というかプレゼント）をいただきます。

そして、今回の帰福時にもやはりうれしいお土産を頂戴しました。今回はなんと『豆盆栽キット』。種から発芽させるタイプの黒松です。それに加えて、“ケヤキ、モミジ”の種とオープンで作れる陶器

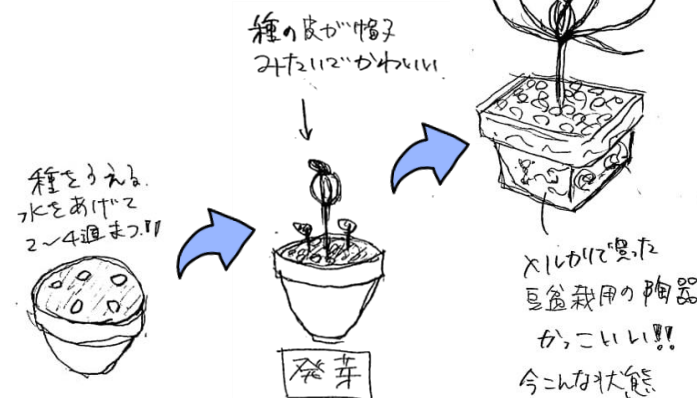
セットもあります。子どもと一緒に器を作って長い時間をかけて盆栽を育てていく、将来良い思い出として沁みそうなものばかりです。



実は、中学生のころ大好きだった沢口靖子が出演していた竹中直人主演の大河ドラマ『秀吉』にはまり、石垣のある城持ちの大名に憧れ、京都の仁和寺を見て趣のある庭が欲しいと思った時期もありました。マイホームを建ててから隣のおじいちゃんが庭で盆栽を育てているのを見て、心の奥底で羨ましいなと漠然と感じていました。侘び寂び文化をなんとなく好きな僕にとっては不意にきた盆栽チャンス、ありがたくてしょうがありません。

1～3月中旬まで仕事もバタバタしていたので、3月下旬の暖かくなったところキットの鉢に黒松の種を植えました。種から植物を発芽させることは、小学生以来無かった気がします。説明書をよく読み毎日霧吹きをかける日々。本当に芽が出るのか待ちきれないので『豆盆栽_育て方』をネット検索。YouTube動画なども多々あり、色々先のことを調べてみると芽が出た後に根を切って植替える、土は赤玉を用意、育てる鉢の水抜き穴のあけ方と針金の通し方など、思っていたより細かい準備が必要でした。軽石に穴をあけて、土を入れて埋めなおした後、苔

を這わせるなど手のひらサイズの世界で色々な見せ方の手法・テクニックがあり、ちょうどいいサイズで実現できそうなことが多くこれから楽しみの柱の一つになること間違いなさそうです。



器も良いものが欲しくなりメルカリで購入し5月には植替えを行いました。現在すくすく成長中でありにも毎日楽しいので、先日の母の日には実家の母へ豆盆栽キットを送り強要してしまいました（笑）。初めてのチャレンジでオーソドックスの黒松から始めましたが、間もなく少しテクニックがいる“ケヤキ”と“もみじ”も始めようかと思えます。豆盆栽とはいえ全て発芽したら全部で15株、早くもスペース問題が出そうですがこれから盆栽ライフを楽しんでいきたいと思えます。

免許皆伝

MENKYOKAIDEN

その69

『アラキが家を建てたとき』の巻 その3：土地探し出会い編

私アラキの戸建てへの思いをつらねるこのコーナー、今回で69号となりました。前々号から連載が続く「アラキが家を建てたとき」シリーズ。ご好評をいただき（当社比）、今回は『その3：土地探し出会い』編です。

今から22年前、自分で設計して自宅を建てようと思ったアラキは土地探しをはじめました。条件は3つ、当時の職場から自転車で30分を目安とした半径7km以内、クルマ3台のため40坪以上、予算〇〇〇万円以内。売り土地を見に行っただけでプランをつくることを繰り返しました。（前回までのおさらい）

前号では、当時つくったプランをいくつかご紹介しました。大きなウォークインクローゼット、二人分を並べた子ども部屋、どこでも家族の気配を感じるワンルームのようなプランなど、ラプロスの戸建てプロスペリテに通じるものがあります。当時、アラキは、葉祥栄さんという著名な建築家が設計した戸建て住宅を借りて住んでいました。葉祥栄さんはイラストレーターの葉祥明さんのお兄さんです。その住宅は、大きな十字型のトップライトが設けられていることから「光十字の家」と名付けられていました。1階はガラス張りの玄関。2階に上がると間取りは2LDKですがワン

ルームのようなひろびろとしたプラン。家全体が宙に浮いたデザインは結晶のようで、素晴らしい建築です。クルマを4台置けたのはアラキにとって天国でした。（トップライトの雨漏りと冬の寒さはちょっと…）

土地探しに話を戻します。

いろいろな売り土地を見てはプランを考えることを繰り返すうちに、だんだんと家に対する思いを家族の中で明確にすることができ、そして土地を見る目も養われてきました。つまり、良い土地を見つけたときに、すぐ買うことを決断する訓練となったのです。もし、買うかどうかと迷っているうちに他の人に買われてしまったら、もう同じ土地は手に入りません。即断即決、先手必勝です。

土地を探し始めて半年ほど経ったときのこと、不動産業者からもらったもののアラキはスルーしていたその土地情報をヨメさん※が拾い上げました。週末、その土地を見に現地へ。静かな住宅街にある道路から少し高く上がった平坦な更地でした。なかなか良さそうです。近くのスーパーで石鹸3個入セットをいくつか

買ってきて両隣とお向かいのお宅をピンポンし、「この土地を買おうと思っているのですが…」とご挨拶。この石鹸3個セットでご近所さん挨拶作戦は、土地のことや周辺のことをヒアリングするために何度か実行していました。ヒアリングで土地には問題なさそうだとわかりました。ご近所さんも良さそうな方たちです。

帰宅しその日のうちにプランをつくって見たところ、クルマ3台が並べられる夢のようなプラン、

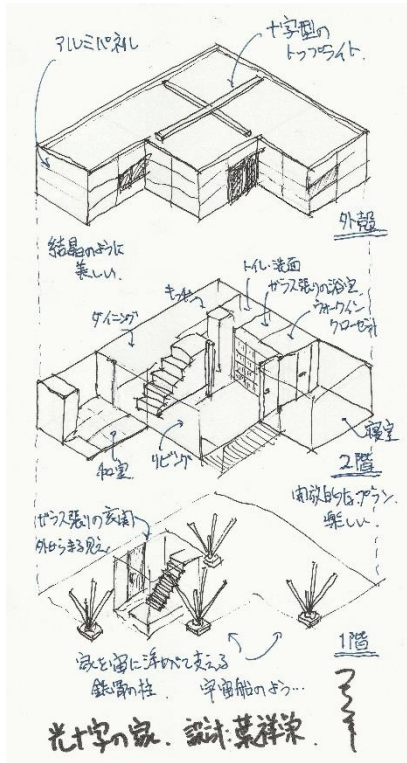
いやそうぢゃあなくて、アラキが目指すどこにいても家族の気配が感じられるワンルームのようなプランができました！ヨメさんのママ友情報では近くにある幼稚園がとても良いそうです！小学校まで遠くはないけれど、中学校は歩いて30分とちょっと遠いですが、ま、アラキが中学生のときも片道30分以上歩いて通学していたので問題ナシ！この土地をすっかり気に入りました！

翌日、不動産業者にこの土地を買いたいと連絡。さてこれからが本番です。問題は資金計画。〇百万円貯めていましたが足りませんので、土地代を銀行から借りなければいけません。当時のアラキは設計の仕事をしており不動産に染まっていなかったもので、どうやって住宅ローンを借りたらよいかサッパリわかりません。

どうする？（さらに次号へ続く。）

注※）

配偶者の呼び方って男性だと夫、亭主、旦那、主人。女性だと妻、家内、嫁、奥さん。自分の配偶者の呼び方もそうですが、お客様の配偶者のことは何と呼べばいいのでしょうか？「ご主人さま」、「奥さま」と呼ぶのは違うような気がしますし、「パートナーさま」というのも照れくさい。困ったものです。



NEW FACE

5月より新しくラプロスの一員となった2名を紹介します。



総務・業務統括部
松本 地花
(まつもと ちはな)

娘が作った、私の似顔粘土とバナナです♪

5月1日より入社しました、松本 地花（まつもと ちはな）と申します。社会人歴をお伝えすると年齢がわかりそうなので、そっとしておいていただければと思います。笑

現在は、先輩方のお力を借りて、時短勤務にて就業しています。総務関係や賃貸管理は、初めてですが、これから学んでいきたいと思っています。

現在の趣味は、時間があれば、子どもと粘土作りをしています。私の頃は灰色の粘土しかありませんでしたが、現在の粘土は、カラフルでとってもかわいい粘土です。子どもと一緒に楽しんで作っています。



住宅事業部
大下 真奈
(おおしも まな)



2022年千葉
カウントダウン
ライブ

5月1日より中途入社いたしました、大下 真奈（おおしも まな）と申します。珍しい読み方ですが、福岡では大下（おおした）という苗字自体なかなか見かける事がないので「木下さん」と呼ばれる事もあります。

前職では某携帯キャリアショップにて、契約スタッフとiPhoneの正規修理スタッフを兼任しておりました。入社以来初めて経験する事が多く社員の皆様に助けて頂いてばかりですが、1歩ずつでも確実に成長していけるよう精進いたします。

趣味は邦楽ロックのライブ観戦で、コロナ禍の前は年に数回参加していました。声出しの解禁など、ライブも少しずつ元の状態に戻り始めているので今年の夏は数年ぶりに夏フェスに行けたら良いな…と考えています。

ご紹介キャンペーン

住宅のご購入を検討されているご家族様・ご友人様をご紹介ください



ご紹介者さまにプレゼント！

※ご紹介者様からの紹介でご成約に至った場合

家や土地を売りたい方もぜひご相談下さい！

新築一戸建て「プロスペリテ」ホームページはこちら



新築一戸建て「プロスペリテ」Instagramはこちら



らぶれたーのご意見・ご感想をお聞かせください！

ラプロスの広報誌「らぶれたー」は2008年12月に創刊し、今号で91号となります。ここまで発行を続けることができたのも、温かく見守っていただいた皆さまのおかげです。皆さまのご意見ご感想をぜひお聞かせください！

住所：福岡市中央区天神1丁目 12-1-5F
FAX：092-737-2212
MAIL：info@lapros.co.jp
「らぶれたー係」まで

編・集・後・記

文：渡辺

私事で恐縮ですが7月中旬より産休に入ることとなりました。この場をお借りしてごあいさつです。みなさまには毎号らぶれたーをご笑覧いただき、本当に感謝しています。また出産と育児が落ち着きましたら戻って来ることを楽しみにしています。その間はNEW FACEの松本・大下におまかせください！しばらくの間私は不在となりますが、元気な赤ちゃんを産んでまた戻ってきます！

